

**岡崎市方言敬語の伝統形式  
および新形式ミエルの消長（補足）**

Vicissitudes of Traditional forms and a New form

“Mieru” in Okazaki Honorifics (supplement)

(Ver. 1.0)

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

辻 加代子

TSUJI Kayoko

平成 27 年 9 月 1 日

1 Sep 2015

## 岡崎市方言敬語伝統形式および新形式ミエルの消長（補足）

神戸学院大学 辻加代子

### 1. はじめに

岡崎市方言敬語の約半世紀の経年変化に関して、筆者は2012年度日本語学会春季大会ワークショップにおいて、第1次～第3次岡崎敬語調査の結果に基づいて概要を報告した。その際、①伝統的な方言敬語はほぼ壊滅状態となり、敬語の共通語化が大いに進んでいること、②例外的に方言敬語伝統形(ヲ)レル、新形ミエルは、本来の性質を変化させつつも盛んに使われていること、③丁寧語は、方言話者にとっては習熟が難しい場合もあり、共通語化の過程で様々な中間形が現れていること、などを指摘した。

本発表では、方言敬語伝統形の待遇価値、新形ミエルの意味領域と使用者の世代分布(この形式を「新形」とする根拠)、中間形の詳細と丁寧語の共通語化の過程について補足的な説明を行う。また、ワークショップの発表では、第1次調査のサンプルはプロパーグループ(研究者が調査した被調査者)だけを用いたが、今回はコントロールグループ(学生が調査した被調査者)のサンプルを加えて集計、分析した結果を示すこととする。

### 2. 分析対象場面

分析対象とする場面は、100番台の回答のうち、第2次調査114「公害問題」場面を除いたものとする。114番は大勢の人の前で意見を述べるという場面であるため、他の場面とはスタイルが大きく変わるであろうと考えたからである。

なお、経年的変化を見る場合は、3回の調査とも質問内容がほぼ同じとなっている101～111番、および113番の場面のデータを用いた。

112番は、第1次調査で「物売り」、第2次調査以降「魚釣り」となった。また、第2次調査から「先生の絵」が加わり、第3次調査では第三者敬語表現の設問が4問加わっている。これらの場面については必要に応じて分析を行った。

### 3. 方言形使用の経年変化

岡崎市方言は西三河方言域に属し、ちょうど東西方言の境界に位置し、西部方言的要素と、東部方言的要素が入り混じった状況にある。そうした状況は敬語表現、例えば丁寧表現や、命令依頼表現などに反映することが予想される。そこで、まず大きく状況をつかむために、話者毎の、標準語形、方言形、中間形の使用状況について調べた。さらに方言形の中には、伝統的な在来形式(以下方言伝統形と呼ぶ)の他に、新来ないし新興のミエル、チョーダイのような形式も報告されている(愛知県教育委員会1993、江端1981)ので、それらを方言新形として両者を分けて分類した。方言伝統形、方言新形、中間形それぞれに分類した際の具体例を下に示し、愛知県教育委員会(1993)などを参考に適宜説明を加える。

---

<sup>1</sup>調査データには、方言形と標準語形とが融合ないし連続しているものや、要素の形態は標準語と同一で組み合わせや承接の仕方が標準語とは異なる表現などが少なからず出現していた。これらは、話者が標準語を使おうとする際、方言が無自覚的に混ざってしまったり、形式は同じだが機能の異なる方言形式を機械的に標準語に変換したりして産出した中間言語的表現だと考えられる。ワークショップの報告では、このような表現を中間形と呼んだ。本発表でもこの言い方を踏襲する。

## ◇方言伝統形

〔敬語項目〕

尊敬語(補助)動詞類:オイキル形(オ+V(連用形)+ル)・(ラ)レル・(サ)ッセル

尊敬語に関しては、敬度の高い順に示すとオイキル形>(サ)ッセル>(ラ)レルのようになるとされる。

オイキル形や、(サ)ッセルは一段動詞や変格動詞の場合、「おせりる」「こらした」のようにラ行五段化することがある。また、(サ)ッセルは三河では話し相手にも使用できるとされる(尾張ではその場にいらない第三者にしか使用できない)。

尊敬と丁寧の機能を併せ持つもの:オ～ヤス

終助詞:ネ・ン・ノなど

終助詞は語調を和らげ親愛の念を込める表現で、少し目上の人や同等の相手に使用される。

ネは標準語と区別しにくい、明らかに標準語と異なるゾネ、ガネ、動詞終止形+ダネのような連続のみられた場合はカウントした。

依頼、勧告表現:～リン・～トクンナ・～テクンナ・～テオクレンなど

～リンはミリン、オミリン、ネリン、オネリンというように、相手に「～しなさい」と勧告を示す場合に使用され、動詞の部分は一段動詞が五段化している。三河ことばの代名詞ともなっているジャン、ダラ、リンの一角をなす。

～テクンナは相手に物事を頼むときに、親しい男性の間で用いる言い方だとされる。

身内敬語:岡崎市では身内の者の動作に敬語を使用することがあるとされる(愛知県では西三河まで)。

〔敬語以外の語法項目〕:ン(否定)、オル(居る)、トル(ている)、ダ(ノダ相当)、デ(原因理由)、ケンド(逆接)、形容詞ウ音便、サ行イ音便(「傘さいた」の「さいた」のようなもの)

〔語彙項目〕:ボッコガサ・マー イッペン(もういっぺん)

〔音韻音声項目〕:ホイデ・ホーダ…[s]音の弱化

## ◇方言新形 (～テ)ミエル・チョーダイ・ス

ミエルは尾張から入ってきたとも。ミエルとオイデルが使用された場合、敬意はオイデルの方が上だとされる。

## ◇中間形

中間形に分類したものは単位の上で大きささまざまなレベルに及んでいる。また、関与する方言形は伝統形であることもあれば、新形であることもある。

- (1)「お出りになる」←「出る」に「お～になる」を重ね、動詞部分がラ行五段化したもの。オミリンのような形式にひかれたか。(例:ココ マッスグ オイキニナッテ オデリニナッタ ヒロイドオロガ コクドーデス)
  - (2)「足りない」←当該方言では五段動詞に否定のンがついて「足らん」となるところに、標準語形ナイを続けてこのようになる。丁寧形にする場合マセンは承接できない。「足りないです」もある。
  - (3)「打つだから」←「打つだで」「打つだけんど」のような言い方の接続助詞部分だけ標準語形を用いた。
  - (4)「行くです」「あるですかね」「おるですから」「打つですけんど」←方言形ダをデスに変換したか。
  - (5)「違うですけど」「出したいですが」「寝てみえるですか」←ノダの機能をもつ方言形ダをデスに変換しただけで、デスの前のンが欠落していると思われる。「悪いですけど」のように形容詞に「ですけど」のような形が続くものの中にも同じような例がある。
  - (6)「おられます」←当該方言の存在動詞はオルであり、オルは待遇的にニュートラルなので尊敬語(ラ)レルが続いた。「～ていられます」の形もある。
  - (7)「どこでしょうかしら」←「かしら」を疑問助詞「か」と同じように幅広く使っている。
  - (8)「あなたの傘でないですか」←「傘では」の「は」が抜けている。
  - (9)「お掛けしとってください」←尊敬語を使うべきところで謙譲語を使っている。
- 他にも三重敬語の類など実にさまざまである。

以上の分類をふまえて、過去半世紀でどのような種類の形式が使われてきたか、その変遷を概観したのが表 1、図 1 である。101~111&113 の場面を通して一人の話者がどんな形を使用したかを集計した。

表 1 場面を通した使用形式の経年変化(101.~111.&113.場面)

第 1 次調査 (N=429)	標準語のみ	63	14.7%
	方言伝統形も使用:内訳(伝 172/伝&新 18/伝&新&中 18/伝&中 120)	328	76.5%
	方言新形も使用 :内訳(新 7/伝&新 18/伝&新&中 18/新&中 2)	45	10.5%
	中間形も使用 :内訳(中 29/伝&新&中 18/伝&中 120/新&中 2)	169	39.4%
第 2 次調査 (N=400)	標準語のみ	90	22.5%
	方言伝統形も使用:内訳(伝 129/伝&新 12/伝&新&中 12/伝&中 100)	253	63.3%
	方言新形も使用 :内訳(新 4/伝&新 12/伝&新&中 12/新&中 3)	31	8.0%
	中間形も使用 :内訳(中 49/伝&新&中 12/伝&中 100/新&中 3)	164	41.0%
第 3 次調査 (N=306)	標準語のみ	159	52.0%
	方言伝統形も使用:内訳(伝 61/伝&新 10/伝&新&中 1/伝&中 24)	96	31.4%
	方言新形も使用 :内訳(新 10/伝&新 10/伝&新&中 1)	21	6.9%
	中間形も使用 :内訳(中 39/伝&中 24/伝&新&中 1)	64	20.9%

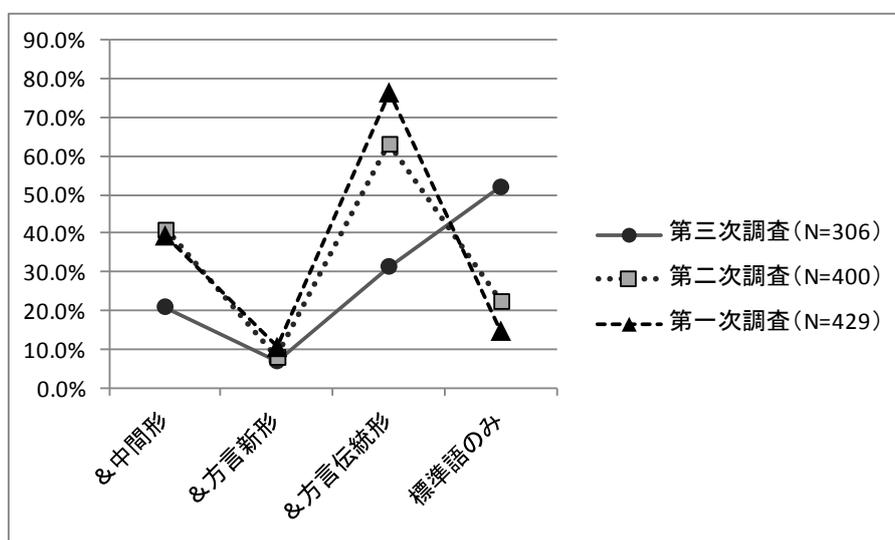


図 1 場面を通した使用形式の経年変化(101.~111.&113.場面)

すべての場面を通して標準語のみで回答した話者は、第 1 次調査では約 15%弱にすぎなかったのが、第 3 次調査では 52%と大幅に増大している。方言伝統形は逆に大幅に減少し、それにとまって中間形も減少している。方言新形はこの場面ではわずかに減少しているが、この点については後で改めて述べる。

次に場面ごとに集計した結果を次頁表 2 に示す。

第 1 次調査で標準語使用が多かったのは、「先生」、「電報(振込)用紙」、「議事堂」場面の順である。その中で、「議事堂」場面では、中間形の使用が結構多くなっている。それが、第 3 次調査になると顕著に少なくなっていることがわかる。

「おつり」場面で中間形が多いのは五段活用「足る」が関与している。第 3 次調査時でも多いが、減少していることも確かである。

伝統形が多かったのは、第 1 次で「おつり」「市役所」の順、第 2 次と第 3 次で「医者」「道教え」であった。

表2 場面ごとの使用形式の経年変化(101.~111.&113.場面)

調査	形式分類	道教え	電報(振込)用紙	荷物預け	傘忘れ	先生	集金人	議事堂	医者	席譲られ	おつり	傘貸し	市役所
第1次 N=429	標準語	320	379	369	349	415	297	365	295	319	246	295	293
	伝統形	97	25	54	37	8	110	32	118	102	133	121	124
	新形	2	13	5	1	0	8	2	8	2	4	12	1
	中間形	9	8	1	47	3	14	33	12	5	70	5	3
	NR	6	5	1	1	3	4	1	1	1	2	1	10
第2次 N=400	標準語	304	351	306	345	398	316	333	300	327	235	337	347
	伝統形	80	20	73	38	1	72	46	86	66	76	55	50
	新形	2	5	3	1	1	3	1	14	0	0	4	0
	中間形	9	22	20	15	0	8	22	12	7	88	2	3
	NR	8	3	1	2	0	4	2	0	2	3	3	2
第3次 N=306	標準語	234	299	275	282	302	283	294	263	290	244	283	291
	伝統形	28	2	18	12	1	14	3	34	12	12	19	9
	新形	2	1	1	5	0	2	1	5	1	4	4	1
	中間形	0	1	10	5	0	5	3	4	3	45	0	0
	NR	42	3	2	3	3	3	5	4	1	3	1	5

4. 方言敬語使用の経年変化

表3に第1次～第3次の3回の調査で出現した場面ごとの方言敬語形式の集計結果を示す。

表3 場面ごとの使用方言敬語形式の経年変化(101.~111.&113.場面)

セル内の数字は使用者数

調査	形式分類	道教え	電報(振込)用紙	荷物預け	傘忘れ	先生	集金人	
第1次 N=429	伝統形	命令依頼以外	o16/On1/n3/i7/r36/終6	終1	ワシ/終4	o4/r16/il/h1/終2	r3/ワシ3/終2	
		命令依頼表現	イラッヤイ1	オクヤス1/オクレンサイ1/オクナ1モラエンカ2	トクヤス1/テオクナ1/テオクレ1/テクレンカ9/テモラエンカ3	0	0	テモラエンカ3/テクレンサイ1/テクレンカ4/テモラエン1/テムカ1
	新形	命・依以外	尊+m1/m1	ス1	0	ス1	0	尊+m2/m5
		命令依頼	0	チョーダ'イ11/チョ1	テチョーダ'イ4/テチョ1	0	0	テチョーダ'イ1
第2次 N=400	伝統形	命令依頼以外	o4/n1/i8/尊+r1/r41/終3	終1	オマス1/終1	尊+n1/n1/尊+r1/r23/終6	丁マ1	i1/r1/終1
		命令依頼表現	0	オクヤス1	テオクマセンカ1/テイタダケンカ1/テオクヤス1/テモラエンデ'スカ1/テモラエンカ4/テクレンカ5/テクレン1/テムカ1	0	0	テオイデン1/テモラエンカ3/テクレンカ5/テクナ1/テモラエン1
	新形	命・依以外	m2	0	0	m1	尊+m1	m3
		命令依頼	0	チョーダ'イ5	テチョーダ'イ3	0	0	0
第3次 N=306	伝統形	命・依以外	r23	0	0	i2/r9/終1	i1	i1
		命令依頼表現	0	オクヤス1	テモラエンカ1/テクレンカ1/テクレン2/トクレ1	0	0	テクレン1
	新形	命・依以外	m2	0	ス1	m5	0	ス2
		命令依頼	0	チョーダ'イ1	0	0	0	0

調査	形式分類	議事堂	医者	席譲られ	おつり	傘貸し	市役所
第1次	命令依頼以外	o1/丁gp4	o2/n1/r15/i1/ワシ4/ワタイ	o2/丁gp5/終1/ワシ3	i1/終4/ワシ3	o1/オn2/r8/i1/ワシ1	o3/r84/i6/終3/ワシ1/オトツチャン1
	伝統形						
	命令依頼表現	テモラエンカ1	テオクレマショー1/テモラエンカ4/テレンカ1	テオイテナサイ1/テオクナ1/テケンナ1	トクレヤス1/テオクレマセンカ1/テオクレマスカ1/テオクナ2/テモラエンカ類5/テレンカ1	オニナランカ1/テオクレヤス2/テオマショー類5/オヤス16/テオクレマセンカ1/テオクナ2/テオクナ1/オナサイ3/テイラッシャイ類3/ナサイ5/テイカンカ2/テイキナ類7/テカッセ1/テキンヤレ1/ヤス1	0
	新形	命・依以外	m1	尊+m1/m6/ス1	ス1	0	m3
	命令依頼	テチョーダ'イ1	0	テチョーダ'イ1	テチョーダ'イ4	テチョーダ'イ9	0
第2次	命令依頼以外	丁gp1/終2	i4/r10/g1/終1/mr1	o1/i1	r1/終3	r8/終6/ワシ1	r14/終2/ヤス(丁寧)1
	伝統形						
	命令依頼表現	テオクレマセンカ1/オオシエネカエンカ1/テレンカ1	テモラエンカ7/テレンカ1	オクレヤス1/テレンカ1	テモラエンカ2/テレンカ1	オヤス6/テオナサイ1/レマセンカ1/テイカンカ1/テレンカ1/テカンセ1/テラッシャイ1/テイキナ2/テイキン1/テキンサイ1/テカッセ1	テオクレマセンカ1/イッテキヤス1
	新形	命・依以外	m1	m11/ス2/mr1	0	0	0
	命令依頼	0	0	0	0	テチョーダ'イ4	0
第3次	命令依頼以外	0	i5/r16	0	i1/終1	r6/終1	r3/終1
	命令依頼	0	0	0	0	ツカイナ2/テイケン2	0
	命・依以外	0	m5	ス1	ス4	ス1	ス1
	命令依頼	テチョーダ'イ1	0	0	0	テチョーダ'イ3	0

〈凡例〉 o:オイキル形 n:ナサル r:(ラ)レル g:ゴザル(「居る」の尊敬) i:イラッシャル・オッシャル  
 尊+n:オニナランカ1/オニナラサル 尊+r:オニナラレル m:ミエル 尊+m:オミエニナル  
 丁gp:ゴザンス(例「ヨーゴザンス」) 丁マ:オマス 終:終助詞類(ン・ダイ・ゾネ・ヤーなど)

表では、形態的に命令や依頼の機能をもつ形式と、それ以外の形式とに分けて記した。

前回の発表で指摘したとおり、全体的に第1次調査の時点で方言敬語を使用する話者の数はきわめて低い。第3次調査まで残ったのは(ラ)レル(表3ではr)、ミエル(表3ではm)、チョーダイくらいで、それ以外にはほぼ壊滅状態である。場面別に見ると、表3で網掛けとした「議事堂」と「電報(振込)用紙」「先生」の場面で方言敬語はほとんど使用されておらず、表2に示した方言形の結果とよく似た傾向を示している。

個別の方言敬語形について以下に説明する。

### i. 方言敬語伝統形

[尊敬語動詞・助動詞類]

- ・オイキル形: 出現数は少ないものの第1次、第2次調査で若干現れ、道教え場面で多い。オイキマス・オイキルデスと丁寧語を承接することもある。テオイデルは「ている」の意味で補助動詞用法もある。
  - ・(サ)ッセル:「傘貸し」場面で「持っていっせ」のような表現に1例現れたのみで衰退がうかがえる。
  - ・(ラ)レル:第1次、第2次調査とも、「市役所」で顕著に多く、「傘忘れ」でも一定数使用されている。「市役所」では父親に言及して使われた敬語のほとんどがこの形式であった。この場面での(ラ)レルの使用は、身内尊敬用法である。身内敬語の使用、に関しては先行研究(愛知県教育委員会1993)の指摘が裏付けられたといえる。
  - ・他に、イラッシャル・オッシャル(以上(サ)ッセルの仲間だが、分けて集計した)・ゴザルなどが現れた。
- [命令・依頼表現]オニナランカ形(「オ+V(連用形)+ヤス」)が第1次、第2次調査とも「傘貸し」場面で、若干数現れた他は、場面を通じてテレンカがわずかに使用されている程度である。「傘貸し」場面では様々

のヴァリエーションが現れており、ジャン・ダラ・リンのリンに通じる(テ)イキン「(テ形+)V(連用形)+ン」のような形も現れた。

〔終助詞類〕 ナン・カン・ダン・ゾン・ダ(名詞&動詞終止形接続、標準語のノダのような機能をもつ)etc.

他に、一人称代名詞ワシ(方言では丁寧な表現である)、丁寧語ゴザンス、終助詞類がわずかに現れた。

出現した尊敬語形の待遇価値を結果から推測するために、複数方言形を使用した回答者をピックアップしてどの場面で誰を主語として使用しているかを調べてみた。結果は次の通りであった。

道教え 傘忘れ 集金人 医者 おつり 傘貸し 市役所 物売り

話者 a: o(対者).....r(父親)

話者 b: o(対者).....r(父親)

話者 c: o(対者)\_\_\_o(対者).....r(父親)

話者 d: o(対者)\_\_\_r(対者)

話者 e: .....オ n(対者) r(父親)\_\_\_o(子の父母)

話者 f: .....r(父親)\_\_\_o(子の父)

話者 g: .....r(隣人)\_\_\_o(対者).....r(父親)\_\_\_o(子の父母)

話者 h: .....m(集金人).....o(対者)\_\_\_r(父親)\_\_\_o(子の父)

話者 i: .....o/r(父親) o(子の父母)

話者 j: .....r(父親)\_\_\_o(子の父)

話者 k: o(対者)\_\_\_n/o(対者).....m(隣人).....r(父親)

【凡例】 ( )内は主語

o:オイキル形 r:(ラ)レル オ n:オ～ナサル m:ミエル

上の結果をみるかぎり、オイキル形>ミエル>(ラ)レルといった敬意の序列は認められそうである。

## ii. 方言敬語新形

方言新形と分類した中に入るミエルについていくらかの調査を行った。

表 4 ミエルの意味領域の分布状況その1 (101.~111.&113.場面)

調査	場面 意味	道教え	傘忘れ	先生	集金人	議事堂	医者	傘貸し	市役所
		第1次 : N=429	来る				1(対者)、6 (集金人)*		
	行く	2(対者)							
	いる						1(対者)		
	~ている					1(対者)	6(隣人)**	1(対者)	1(父親)
	~てくる							1(対者)	
第2次 : N=400	来る	1(対者)			3(の集金人)				
	行く								
	いる	1(対者)		1(対者)			1(隣人)、1 (急病人)		
	~ている		1(対者)			1(対者)	10(隣人)***		
第3次 : N=306	来る	1(対者)							
	行く	1(対者)							
	いる						2(急病人)		
	~ている		5(対者)				3(隣人)		

【凡例】 ( )内は主語 \* :回答中、2例オミエニナル \*\* :回答中、1例オミエニナル \*\*\* :回答中、1例ミエラレル

表5 ミエルの意味領域の分布状況その2 (表4以外の場面)

調査	場面		1次:物売り / 2・3次: 魚釣り	先生の絵	第三者_尊敬表現【話し手<話し相手<話題の人物】【回答】	第三者_尊敬表現【話し手<話し相手>話題の人物】【回答】	第三者_尊敬表現【話し手=話し相手<話題の人物】【回答】
	調査	意味					
第1次 : N=429	いる		12(父親・父母・両親)				
	~ている		2(対者)、8(父親・父母)				
第2次 : N=400		~ている	1(対者)	1(対者=先生)			
第3次 : N=306		いる			68(対者)****	82(対者)*****	48(対者)*****

【凡例】 \*\*\*\*:回答中、28例オミエニナル・2例オミエニナラレル

\*\*\*\*\*:回答中、1例ミエラレル、25例オミエニナル・1例オミエニナラレル

\*\*\*\*\*:回答中、44例ミエル、3例オミエニナル・1例オミエ

まず、標準語のミエルは「来る」の意味だけしかもたないが、当該方言のミエルは「来る」「行く」「いる」「ている」の意味をもつ。調査で実際に現れたミエルの意味領域の分布状況を表4、表5に示す。表4には経年変化の概要をみた表1~3と同じ101.~111.&113.場面について、表5ではそれ以外の場面についてまとめた。「物売り」は見知らない物売りの子に父親のいるいないを聞く質問、「先生の絵」は尊敬する先生に「この絵はあなた(先生)がかいたのか」を尋ねる質問、第三者尊敬表現は話題の人物は「今学校にいるか」を尋ねる質問である。

結果からは実際、幅広い意味領域で使用されていることがわかる。具体的な使用例を下に示す。

「行く」の意味での使用例 : チョクシンデ ミエタラ マスグ イクト ワタレマス【道教え】

「いる」の意味での使用例 : オトーサン ミエマスカ 【物売り】

「ている」の意味での使用例 : スイマセン カサオ ワスレテ ミエマスヨ【傘忘れ】

アノー チカクノカタガ キュービョーデ イマ クルシンデミエマスノデ オーシンシテイタダケマスカ【医者】

センセ ムカシカラ エ カイテミエテネ ズーット コーヤッテ カイテミエマスカ マー イー オモイデノ エデ アノ トッテモネー キレーニ カケテマス【先生の絵】

なお、表4、表5からは、表1~3では現れなかったミエル使用の広がりを知ることができる。ここで、ミエルがどんな世代に使われているか、調査時別に調べてみた。

表6 ミエル使用者の世代別分布状況 (数字は使用者数。カッコ内はそのうち女性)

世代別分類	第1次調査	第2次調査	第3次調査
10代	11(8)	0	1
20代	11(9)	1(1)	7(2)
30代	6(5)	3(3)	11(7)
40代	8(5)	5(1)	19(15)
50代	1(1)	3(2)	27(17)
60代	2(1)	2(1)	28(14)
70代	-	1	20(8)

表6の分布状況からは、ミエルが第1次調査時、岡崎市で新興の形式であっただろうことが裏付けられるものと思われる。

## 5. 丁寧語の共通語化について

3節で示した中間形の中には丁寧語デス・マスの生成にかかわるものが少なからずある。例を示したものうち(4)(5)(6)(7)(8)のようなものである。もともと丁寧語成立の歴史は浅く、標準語のデス・マスの形が方言として定着している地域はごく限られており、デス・マスの体系そのものが変則的なものである。さらには丁寧語そのものが中央語の歴史上長い時間をかけて成立したもので、それを使っていなかった者(岡崎市の話者の中には尊敬語や終助詞だけを使い分けていた者もあったと思われる)が使おうとすればいわば発想の転換を必要とするようなものである。岡崎敬語調査のデータに表れた中間形はこのような事情を背景としている。その中間形が第3次調査で相当程度減少しているということは2009年時点で丁寧語の共通語化がほぼ終了したということを示していると指摘できるであろう。あわせて、「足りないです」のような形が残ったということは、動詞の活用のような項目は変化しにくいということも言えるであろう。

「行くです」のような形に関しては管見のところ、加藤(1973)に次のような記述があるくらいなのでさらなる記述が必要ではないかと思われる。

＜読ムデス＞は九州に主勢力を持ちながら全国に散在している。……動詞+「です」は標準語とはされてない。しかし、「山です」などからの類推でこれが全国的にまんえんしつつあるような感じである。特に関東から東北部にかけては＜読ムダ＞があるので、＜読ムデス＞も定着しやすさろう。

(加藤 1973: 59)

## 6. まとめと今後の課題

本発表では、第1次調査のコントロールサンプルを加えて、方言敬語形や方言形使用の経年変化について概括的に示した。

それに加えて、方言敬語形の待遇価値を検討し、尊敬語形については、第一次調査から読み取れる範囲では、先行研究に示されているとおり、概略、オイデル>ミエル>ラレルの順に待遇価値が高いことを示した。また、ミエルは「来る」のほか、「行く」「居る」「ている」の意味で活発に使用されていること、使用世代の分布から岡崎市で第1次調査時点で新興の形式だったと解釈できること、丁寧語デス・マスについては第1次、および第2次調査時点で標準語とは異なる形を用いる話者が多数いたが、第3次調査時にはその共通語化がだいぶ進んだことを示した。

最後の丁寧語のトピックに関してはさらに具体的な記述を要すると思うので、今後の課題としたい。

### 【参考文献】

- 愛知県教育委員会(1993)『愛知県の方言—岡崎—』ビデオ解説書  
江端義夫(1981)「方言敬語体系の方言地理学的考察——愛知県地方域方言のばあい——」『国文学攷』90 pp.19-32 広島大学国語国文学会  
加藤正信(1973)「全国方言の敬語概観」『敬語講座 6 現代の敬語』明治書院  
国立国語研究所(1957)『敬語と敬語意識』国立国語研究所  
国立国語研究所(1983)『敬語と敬語意識—岡崎における20年前との比較—』三省堂  
辻加代子(2012)「4.岡崎市方言敬語伝統形式および新形式ミエルの消長」(ワークショップ「岡崎敬語調査報告—継続サンプルの分析—」)『日本語学会 2012 年度春季大会予稿集』日本語学会

大規模経年調査資料集 **23**

Material for Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

岡崎市方言敬語の伝統形式  
および新形式ミエルの消長（補足）

Vicissitudes of Traditional forms and a New form

“Mieru” in Okazaki Honorifics (supplement)

(Ver. 1.0)

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

著: 辻加代子

TSUJI Kayoko

発行:平成 27 年 9 月 1 日 1 Sep 2015

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2 Tel. 042-540-4300(代)

10-2 Midori-cho, Tachikawa City, Japan 190-8561

<https://www.ninjal.ac.jp/>